

# 教育研究業績書

2018年11月21日

所属：生活環境学科

資格：教授

氏名：三好 庸隆

研究分野	研究内容のキーワード
都市環境デザイン学・ニュータウン学・建築計画学	都心・郊外再生、ニュータウン計画、エリア・マネジメント、団地再生、まちづくりソーシャルデザイン、住宅地計画、建築設計
学位	最終学歴
博士（工学）、工学修士、工学士	大阪大学大学院 工学研究科 建築工学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 学科横断プロジェクトの推進—健康まちづくり研究者ネットワーク	2016年～  2007年～  2007年～	健康をテーマにまちづくりを考えていくことが大切な時代を迎えている。この発想から、三好の呼びかけに応じてくださった先生方（健康・スポーツ科学科、食物栄養学科、看護学科、生活環境学科）と、具体的に大阪府豊能町にて取り組んでいる。大学と豊能町とは連携協定を締結（2017年4月）。  三好が計画・設計した、又はしているプロジェクトを紹介したり、完成しているプロジェクトについては、視察をするなどして、できるだけ具体的に教育することを試みている。  三好が計画・設計した、又はしているプロジェクトを紹介したり、完成しているプロジェクトについては、視察をするなどして、できるだけ具体的に教育することを試みている。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 教材について	2007年～	建築計画、企画、設計指導などで用いる教材は、実務家としての豊富な経験を生かし、自分がかかわってきたプロジェクト、設計実例を多く使用した。それによって、学生がリアリティを感じられるものと思われる。
2. 教材について	2007年～	建築計画、企画、設計指導などで用いる教材は、実務家としての豊富な経験を生かし、自分がかかわってきたプロジェクト、設計実例を多く使用した。それによって、学生がリアリティを感じられるものと思われる。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
	2007年～  2007年～	実務者として多数のプロジェクト（建築設計、ニュータウンおよび住宅地設計、まちづくりなど）に参画、完成させてきているので、教育現場で、学生にその実績、プロセスなどを見せて、具体的な指導ができる。  実務者として多数のプロジェクト（建築設計、ニュータウンおよび住宅地設計、まちづくりなど）に参画、完成させてきているので、教育現場で、学生にその実績、プロセスなどを見せて、具体的な指導ができる。
<b>4 その他</b>		
1. 修士論文指導	2007年04月から2018年03月	11年間の修士論文指導本数は4本。
2. 卒業研究指導	2007年04月から2018年03月	11年間で卒業研究指導本数は77本。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 工学博士	2005年03月	論文「郊外ニュータウンの持続的発展方策に関する基礎的研究—兵庫県三田市のニュータウンと既成市街地との比較分析を通して—」で、大阪大学より授与される
2. 一級建築士	1977年03月	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
	2007年～	実務者として多数のプロジェクト（建築設計、ニュータウンおよび住宅地設計、まちづくりなど）に参画してきているので、教育研究分野と産業界・公的分野と有機的に連携を図ることができる。このことは学生への就職指導についても、極めて具体的な指導ができる。
<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. モダンエイジの建築—『建築と社会』を再読する	共	2017年3月30日発行	日本建築協会	本書の中で、「千里ニュータウン」の項目を執筆。
2. 生活をデザインする	共	2011年10月	光生館	「第4章 地域のデザイン」の「4. 地域を計画すること」を担当執筆。
3. 都心・まちなか・郊外—京阪神大都市圏の将来	共	2010年04月	株式会社 晃洋書房	本書は京阪神大都市圏の継続的な人口減少状況を踏まえ、これからの都心・まちなか・郊外の在り方について論じている。編著者は、広原盛明、高田光雄、角野幸博、成田孝三の各氏で、三好庸隆は「第II部 郊外編」の「第7章郊外ニュータウンのオールドタウン化とその再生—公共・民間セクターのコラボレーション」を担当。
4. 英国田園都市の過去・現在・未来	共	2002年	千里国際情報事業財団	英国の田園都市・レッチワースについてその計画内容とまちづくり上の意義について齋木崇人が紹介し、当時計画中の国際文化公園都市・彩都について事業者サイドから植松宏之が、プランナーサイドから三好庸隆が講演したものをまとめた本である。
5. 都市デザインの仕事	共	2001年	学芸出版社	本書は鳴海阪大教授（当時）ほか都市環境デザイン分野で活躍中の研究者、実務者が同分野の具体的な仕事内容について論じたもの。三好庸隆は、都市計画、まちづくり、建築設計分野を横断する仕事の実状と魅力について執筆している。
6. <まちづくり>への新発想—その可能性と18の視点	単	1998年	建築資料研究社	本書はこれからのまちづくり、都市環境デザインについて、主な分野について、その可能性と具体的考えについて論じたものである。
7. ガレキ=都市の記憶—ポスト震災のアーテスケープ	共	1996年	樹花舎	阪神・淡路大震災後、都市の記憶について、建築家である三好庸隆、貴志雅樹、北村陸夫と芸術家・今井祝雄の4名が議論し、展覧会、論文等で活動した内容をまとめたもの。
8. デ・アーキテクチャー—脱建築としての建築	共	1992年3月10日	鹿島出版会SDライブラリー	J. ワインズ著の翻訳。大島哲蔵氏と共訳。
<b>2 学位論文</b>				
1. 郊外ニュータウンの持続的発展方策に関する基礎的研究—兵庫県三田市のニュータウンと既成市街地との比較分析を通して—	単	2004年12月		三好の博士（工学）論文。 戦後の代表的都市・住宅施策のひとつである大都市郊外ニュータウンは、人口減少・人口都心回帰現象を背景に、ニュータウンの高齢化・人口減少に伴う生活環境施設（例えば商業施設）等の魅力低下等が危惧される。そのような問題意識から、郊外ニュータウンの持続的発展方策について、実証的に論じた論文。
<b>3 学術論文</b>				
1. 大学生を対象としたシェアハウスにおける住意識に関する研究(査読付き)	共	2018年7月	日本建築学会 「地域施設計画研究 36」	司馬麻未, 三好庸隆 今後シェアハウスの居住者となり得る若年層の大学生を対象として、シェアハウスに対する住意識を把握することと、性別や学年、居住環境、シェアハウスに対するイメージなどの要因がシェアハウスに対する住意識に与える影響に着目し、その相関関係を探ることを目的としている。博士課程院生指導論文。
2. 公的賃貸住宅居住者の居住意識に関する研究—大阪府住宅供給公社・茶山台団地のケーススタディ(査読付き)	共	2018年7月	日本建築学会 「地域施設計画研究 36」	玉井香里, 三好庸隆 日本が人口減少社会、成熟社会を迎え、賃貸住宅の位置づけ、ニーズについてもこれまでとは異なってくるであろうという仮説から、公的賃貸住宅居住者の居住意識について調査し、今後の課題等について分析、考察を行っている。修士指導論文。
3. 公的賃貸住宅が内包する課題について—大阪府住宅供給公社・茶山台団地居住者アンケート調査より	共	2018年7月	日本都市計画学会関西支部研究発表委員会 「第16回関西支部研究発表会講演概要集 Vol. 16」	玉井香里, 三好庸隆 公的賃貸住宅の居住者がどのようなことに関心を持ち、どのようなことを不安に感じているかを明らかにし、都市の中での公的賃貸住宅のこれからの在り方について考察している。修士指導論文。
4. 高齢期におけるモノの整理・収納に関する研究—有料老人ホームへの住み替え時におけるモノの整理・収納の事例報告	共	2016年5月22日	第43回日本生活学会研究発表会	小林朗子, 三好庸隆
5. 暮らしに誇りと輝きを取り戻す「生活と公共」のプラットフォームはいかに創造されるか—<まちづくり>から<まちづくりソーシャルデザイン>へ	単	2015年	日本生活学会、生活学論叢、VOL27.	日本生活学会、第42回研究発表大会の公開シンポジウム報告。
6. 「シェアハウス」に関する研究動向	共	2014年6月	平成26年度日本建築学会近畿支部研究発表会	司馬麻未, 三好庸隆
7. 近年におけるシェアハウスの動向	共	2012年6月	平成24年度日本建築学	司馬麻未, 鈴木優里, 三好庸隆

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
について—シェアハウスの動向と 実態に関する研究（その1）			会近畿支部研究発表会	
8. シェアハウスの暮らしの実態につ いて—シェアハウスの動向と実態 に関する研究（その2）	共	2012年6月	平成24年度日本建築学 会近畿支部研究発表会	司馬麻未、鈴木優里、三好庸隆
9. シェアハウスの動向と実態に関す る研究	共	2012年6月	日本生活学会、第39回 研究発表大会	司馬麻未、鈴木優里、三好庸隆
10. 国際文化公園都市<彩都>での、 集合住宅地計画	単	2006年10月	社団法人生産技術振興 協会発行、大阪大学生 産技術研究会編集 「 生産と技術」2006年秋 号	三好の、国際文化公園都市<彩都>での集合住宅地 計画における試みを述べるとともに、これからの郊 外住宅地開発について論じている。
11. 郊外マンション供給の新たな展開	単	2006年02月	日本マンション学会誌 「マンション学 第23 号」	「特集 地方・郊外のマンション」における三好の 論文。現在進行中の郊外住宅地、マンション計画に おける考えをまとめたもの。 （日本マンション学会からの依頼論文）
12. 兵庫県三田市のニュータウンにお ける居住者の地域活動への参加意 向等の分析 —郊外ニュータウン の持続的発展方策に関する基礎的 研究（その3）—	共	2005年02月	日本建築学会計画系論 文集 No.588	三好庸隆、柏原士郎、吉村英祐、横田隆司、飯田匡 、川村崇
13. 兵庫県三田市のニュータウンにお ける地域施設の利用満足度と施設 要求 —郊外ニュータウンの持続 的発展方策に関する基礎的研究（ その2）—	共	2004年08月	日本建築学会計画系論 文集 No.582	三好庸隆、柏原士郎、吉村英祐、横田隆司、飯田匡 、川村崇
14. 兵庫県三田市のニュータウンにお ける居住意識構造の分析 —郊外 ニュータウンの持続的発展方策に 関する基礎的研究—	共	2003年09月	日本建築学会計画系論 文集 No.571	三好庸隆、柏原士郎、吉村英祐、横田隆司、飯田弘 一、川村崇
15. 三田市ウッディタウン等における 居住者の地域活動への参加意向等 の分析 —郊外ニュータウンの持 続的発展方策に関する基礎的研究 （その3）—	共	2003年07月	日本建築学会地域施設 計画研究 No.21	三好庸隆、柏原士郎、吉村英祐、横田隆司、飯田匡 、川村崇
16. 三田市ウッディタウン等における 地域施設の利用満足度と施設要求 の分析 —郊外ニュータウンの持 続的発展方策に関する基礎的研究 （その4）—	共	2003年07月	日本建築学会地域施設 計画研究 No.21	三好庸隆、柏原士郎、吉村英祐、横田隆司、飯田匡 、川村崇
17. 神戸市<山の街>住宅地・近隣セ ンターのクリニック系生活支援セ ンターへの転換事例 —郊外ニュー タウンの持続的発展方策に関す る基礎的研究（その5）—	共	2003年07月	日本建築学会地域施設 計画研究 No.21	三好庸隆、鶴野弘志、川村崇 多くの郊外ニュータウンは、“近隣センターの衰退 ”という課題を抱えており、コミュニティ形成上、 大きな問題ともなっている。本論文では、三好が、 神戸市<山の街>の閉鎖されていた近隣センターを 、クリニック系生活支援センターとして再生させた 事例を、計画論的視点から分析し、報告している。
18. 兵庫県芦屋市における地区特性別 にみた居住者の地域施設の利用実 態と住環境の評価構造について— 郊外ニュータウンの持続的発展方 策に関する基礎的研究（その2） （査読付）	共	2002年07月	日本建築学会地域施設 計画研究 No.20	横田隆司、柏原士郎、三好庸隆、吉村英祐、飯田匡 、伊丹康二、川村崇、小島幸子
19. 三田市ウッディタウン等における 居住意識構造の分析 —郊外ニュー タウンの持続的発展方策に関す る基礎的研究（その1）—	共	2002年07月	日本建築学会地域施設 計画研究 No.20	三好庸隆、柏原士郎、吉村英祐、横田隆司、飯田弘 一、川村崇
20. 一対比較アンケートからみた人の 求める住環境要素の分析 —魅力 的な住環境のあり方に関する研究 （その2）—	共	2002年06月		大浦寛登、柏原士郎、吉村英祐、横田隆司、飯田匡 、三好庸隆、川村崇
21. 住環境の異なる3地区における住 民意識の比較分析 —魅力的な住 環境のあり方に関する研究（その 1）—	共	2002年06月		横田隆司、柏原士郎、吉村英祐、飯田匡、三好庸隆 、川村崇、大浦寛登
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. 日本生活学会第42回研究発表大会 公開シンポジウム「生活と公共 」ゲストスピーカー		2015年6月27 日		暮らしに誇りと輝きを取り戻す「生活と公共」のプ ラットフォームはいかに創造されるか—<まちづく り>から<まちづくりソーシャルデザイン>へ
2. 日本都市計画家協会関西支部		2007年02月		明舞団地再生コンペ最優秀賞をうけて
3. (社)都市住宅学会 第14回全国 大会・学術講演会（京都）		2006年11月		ワークショップ4—団地再生の第2ステージ（パネ ラー）

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
4. (社) 都市住宅学会 第13回全国大会・学術講演会(つくば)		2005年11月		ワークショップ2-団地再生の理想と現実 (コーディネーター 兼 司会)
5. (社) 都市住宅学会関西支部 都心郊外の共生をめざす大都市居住研究委員会		2005年08月		郊外ニュータウンの持続的発展について
6. (社) 都市住宅学会関西支部 総会		2005年05月		クルマに依存しない郊外生活の可能性—箕面市の場合 (コメンテーター)
<b>2. 学会発表</b>				
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績</b>				
1. 地域芸術祭一のせでんアートライン		2013年～		地域芸術祭「一のせでんアートライン」の2013,2015年度は総合プロデューサーを、2017年度は実行委員長を務める。
2. 団地再編COMPETITION—河内長野市長賞受賞		2013年	関西大学KSDP団地再編プロジェクト主催、河内長野市共催の提案競技	河内長野市UR南花台団地を想定した、団地再編に関する提案コンペで2位となる。大学院生 大井理恵との共同受賞。
3. 明舞センター地区(商業・住民交流ゾーン)第1期再生事業提案競技当選		2011年	兵庫県住宅供給公社主催の事業提案競技	明舞団地の再生計画の目玉事業として、センター地区の第1期再生事業内容の提案と事業者を求める提案競技が行われ、三好庸隆全体監修、PPI計画・設計研究所基本計画、実施設計施工・大和ハウス工業、事業主体ダイワロイヤルのチームが当選する。実施に移され、2013年3月に兵庫県知事列席のもと、オープンした。
4. 明舞団地再生コンペ最優秀賞受賞		2006年04月	兵庫県、兵庫県住宅供給公社が主催の提案競技。	ここ数年、都市計画・建築計画の分野で、団地再生が大きなテーマとなりつつある。そのような中で、兵庫県、神戸市、明石市、都市再生機構、兵庫県住宅供給公社などで構成される明舞団地再生コンペ委員会主催のコンペが開催され、三好案(提案チーム名は、「大阪ガス・PPIグループ」)が、最優秀賞を受賞。
5. 茨木市都市景観賞		2005年02月	茨木市	三好が基本構想・基本計画を策定した、国際文化公園都市<彩都>の阪急彩都あさぎガーデンビレッジ(67戸の戸建住宅地)が第4回茨木市都市景観賞を受賞(受賞者名は、阪急彩都開発株式会社)
6. 国土交通省住宅局主催・第16回住宅月間功労賞		2004年10月	国土交通省住宅局	三好がマスタープランナーとして指導した、国際文化公園都市<彩都>のジオ彩都みなみ坂(444戸の集合住宅)が、国土交通省住宅局主催・第16回住宅月間功労賞表彰の法人部門・国土交通大臣賞を受賞(受賞者名は、阪急彩都開発株式会社)
7. 第16回 日本建築士会連合会賞(業績賞)優秀賞受賞	単	2001年	日本建築士会	三好が発案して実施された、豊中市・中高生のまちづくり講座の長年の実績が評価される。
8. 第1回 豊中市都市デザイン賞受賞	単	1993年	豊中市	三好が指導した、通称「豊中・ロマンチック街道」における都市デザインに関する活動が評価されて受賞。
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 豊能町における健康まちづくりの試み(発表)	共	2018年8月31日～9月2日	2018 International conference on Festival, Sports, and Leisure (主催: 呉鳳科技大学、日本身体文化学会、台湾身体文化学会)	武岡健次、三好庸隆。大阪府豊能町で2018年度に行った健康まちづくりの実践的活動に関して、主として健康面から上記学会にて発表をおこなう。
2. 明舞団地シンポジウム—これからの明舞を考える	共	2017年11月26日	兵庫県・兵庫県住宅供給公社	シンポジウムのパネリスト
3. 大大阪国技館開設80周年記念シンポジウム	共	2017年11月23日	水都の会(水都大阪を考える会)	シンポジウムのパネリスト
4. 暮らしに誇りと輝きを取り戻す「生活と公共」のプラットフォームはいかに創造されるか—<まちづくり>から<まちづくりソーシャルデザイン>へ	単	2015年9月30日	日本生活学会誌「生活学論叢」27号	2015年、第42回研究発表大会公開シンポジウム「生活と公共」のゲストスピーカー内容の報告である。
5. 関西ソーシャルアート会議VOL.3でのゲストスピーカー	共	2015年8月8日		関西テレビCSR推進活動「ソーシャルアートウェーブ」でのトークライブ「関西ソーシャルアート会議」のVOL.3(第3回)に出演。ソーシャルアートとまちづくりについて語る。
6. のせでんアートライン妙見の森SOCIAL ART WAVE(FM COCOLO番組)	単	2015年10月10日～2015年11月28日(同年8月8日に出演)		ラジオ番組で、のせでんアートラインに関することを総合プロデューサーの立場で語る。
7. 中国・青島でのニュータウン計画	単	2015年10月1	教育・研究誌「生活環	筆者が2013年秋から2014年初夏にかけてマスター・

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
一状況報告		日	境学研究」3号	プランナーとして取り組んだ青島でのニュータウン計画の概要報告である。
8. 『団地再生COMPETITION2013』報告	共	2014年9月1日	教育・研究誌「生活環境学研究」2号	団地再生アイデア・コンペ『団地再生COMPETITION 2013』（主催：関西大学先端科学技術推進機構 地域再生センター、共催：河内長野市）で三好庸隆研究室案（三好と修士課程2年大井理恵チーム）が河内長野市長賞を受賞。その内容についての報告である。
9. 明舞団地再生への試み 一センター地区新複合商業施設“コムボックス明舞”のオープン	単	2013年9月1日	教育・研究誌「生活環境学研究」1号	2011年に明舞センター地区（商業・住民交流ゾーン）第一期再生事業提案競技で、筆者案が採択され、実施に移された。その経緯と今後の課題についてまとめている。
10. 郊外生活圏再活性化にむけて 一郊外鉄道沿線付加価値向上への試み	単	2013年9月1日	教育・研究誌「生活環境学研究」1号	筆者が総合プロデュースを行なったくのせでんアトライ妙見の森2013のコンセプトについてまとめている。
11. <アーキテクト・トーク>三好庸隆（建築家・都市環境デザイナー）と加藤恵正（経済学者）の対談	共	2012年9月	雑誌「建築ジャーナル」2012年9月号	「団地再生」をテーマに三好と経済学者との対談記事。
<b>6. 研究費の取得状況</b>				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2018年10月10日～2019年3月31日	貝塚市 せんごくの杜(千石荘病院跡地) 開発事業者選定委員会 委員長
2. 2017年7月～2018年3月31日	国土交通省の「都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会」委員
3. 2016年7月1日～2017年6月30日	大阪梅田ロータリークラブ会長（2回目）
4. 2016年後期	西宮市大学共通単位講座講師（西宮市大学交流協議会）
5. 2016年から	鳴尾大学講師（鳴尾連合自治会）
6. 2015年8月5日～2015年8月19日	明舞団地リノベーションモデル企画提案等選定評価委員会委員長
7. 2015年5月29日	貝塚市民文化会館指定管理者選定委員会副委員長
8. 2015年4月1日～	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター招へい教授
9. 2012年4月1日～2013年3月31日	兵庫県立大学政策科学研究所客員研究員
10. 2012年10月1日～	くのせでんアトライ妙見の森・2013/2015総合プロデューサー、2017年実行委員長
11. 2011年4月1日～	兵庫県三田市景観審議会委員
12. 2011年2月17日～2011年3月11日	観月橋団地における空家住宅募集再開に係る商品企画及び入居促進業務の民間事業者募集に係る企画審査委員長（都市再生機構西日本支社よりの委嘱）
13. 2008年4月1日～2012年3月31日	日本建築学会近畿支部環境保全部会長
14. 2007年7月1日～2008年6月30日	大阪梅田ロータリークラブ会長（1回目）
15. 2007年4月1日～	NPO法人エコデザインネットワーク副理事長
16. 2005年4月1日～2006年3月31日	大阪府におけるヒートアイランド対策調査検討委員
17. 2004年4月1日～2008年3月31日	都市住宅学会近畿支部定議員
18. 1998年4月1日～2004年3月31日	都市住宅学会関西編集委員
19. 1997年4月1日～2001年3月31日	日本建築家協会近畿支部都市デザイン委員会委員長
20. 1993年4月1日～2013年3月31日	豊中市まちづくり専門家会議委員